エラン

能見勇八郎（のうみ）の市政報告

ÉLAN　No.11

発行者：能見勇八郎
〒679-3301　朝来市生野町口銀谷757
TEL:079-670-5040　FAX:079-670-5067
Email:nohmi-y-k@par.odn.ne.jp
Twitter:@nohmiyuuhachiro
Facebook:https://www.facebook.com/nohmi8

発行日　平成29年8月23日

［Ⅱ］ 銀山湖のワカサギ事業

お盆も過ぎ、暑い中にも秋の気配を感じるようになりました。秋、冬と季節は移っていきます。今回も生野の観光を取り上げますが、今まで手が出せなかったのは、この冬の観光です。その1つの取り組みをご紹介したいと思います。

銀山湖のドーム付き浮桟橋

（１）冬の観光事業の創出に向けて

今年の夏も昨年と同様、約１５,０００人もの人々が魚ケ滝を中心とする黒川渓谷を訪れている。背景には若者の間でのデイキャンプの流行がある。

しかし、冬は雪と寒さで訪れる人もない。これを打破できるのが銀山湖のワカサギ事業である。現在ワカサギ釣りは若い女性を含め全国的に人気上昇中であり、冬のレジヤーとしてブームになっている。

（２）孵化装置と圧倒的な数の稚魚の放流

３０年も前であろうか生野町時代にワカサギが銀山湖に放流されたことがある。しかし、これは失敗に終わった。その後、十数年前から稚魚を試験的に放流してきたが、平成２６年から、新たな放流事業がスタートした。

近年の卵の孵化装置は清潔な水で一定の温度(１３～１４℃以下)に管理され、膨大な数の卵(2,０００万粒から4,０００万粒)を１０日ほどかけて孵化(日本一と言ってもよい孵化率９５%)し、稚魚を一気に湖水の低温部分へ放流する。このことによって、生息域の異なるブラックバスの餌食になることを防ぐことができる。

この事業は「兵庫県の釣りと文化を守る会」の代表、酒井 信由喜氏がH ２６年「銀谷観光」の秋山社長の下を訪れ、銀山湖のワカサギの放流を持ちかけたことに始まる。孵化装置３台(1台３０万円)とそれを使った2,０００万粒のワカサギ卵の孵化と放流である。(注1)

（３） ワカサギ「メガサキ」の生育状況

試し釣りの結果、１５㎝クラス、中には１７㎝もこえる巨大ワカサギが釣れることが分かる。釣り情報誌「釣り場速報」の記者が２人の釣りガールを連れて訪れ、早速、巨大ワカサギ「メガサキ」として記事にした。

銀山湖がワカサギの生育に適していることが分かる。ブラックバスの餌にならないか心配される方もいるが、ブラックバスは表層の温かい水温の部分を生息域とし、ワカサギは深層（２５m超の）で水温１０℃以下の部分を生息域としており、ブラックバスの餌になることはない。最近全国的にワカサギの大きさは１０㎝ほどだが、幼魚期の生育に必要なプランクトンが豊富で、巨大化すると言われている。

（４）手軽で安全な釣場の整備

ボートで湖面に漕ぎ出して釣るのでは大変である。手軽で安全な釣りには浮桟橋の設置が求められる。

これは事業者の責任でもあるが、加えて釣り客の安全を考えて、救命胴衣、子ども達が利用できる釣り具等の整備などが必要である。市川生野漁業協同組合の事務局をかねる「ＮＰＯ法人いくのライブミュージアム」が色々と便宜をはかっているが、観光振興に向け観光協会の支援も期待される。

Ｈ２７年度にドーム付浮き桟橋を整備し、朝来の小中高生を対象に「子どもゆめ基金」の助成を受けて、「生野銀山湖でワカサギ釣ろう親子体験」事業を公民館講座として実施した。冬の銀山湖という厳しい自然の中、ワカサギを釣り、釣りの面白さ、感動を通じ、子供達の健やかな成長を目指すものである。また「夢但馬応援事業」の助成を受け「生野銀山湖でワカサギを釣ろう大会」事業も行われている。

なお、ワカサギ釣りの料金１,５００円は「銀谷観光」の施設の利用料であり、ワカサギ釣りの施設整備に当てられる(「銀谷観光」の施設を利用しない場合は当然無料である)

（５）年間１万人の釣客をめざして

当面の目標は１万人の釣り客である。　それは単に釣客の増加だけでなく、消費の増大など町内における経済波及効果、特に冬期に入浴客が激減する黒川温泉の来客増がおおいに期待され、冬の観光の切り札となりうる。

先進地の奈良県吉野町、津風呂湖のワカサギ釣りの客数は初年度のＨ２４年が１５０人、２５年が1,０００人、２６年が4,０００人であり、現在は7,０００～8,０００人と聞いている。（注2）

銀山湖はH ２７年が１８０人、２８年が７００人と推移している。津風呂湖の例からすると十分、１万人を目指せる数値である。

（注１） 酒井氏は水産庁の「水産多面的機能発揮対策事業」で種苗放流交付金を受けワカサギの放流を行った。Ｈ２６年、２７年はこの交付を受けて、事業が行われたが、Ｈ２８年度から制度変更が行われることとなり、「兵庫県の釣りと文化を守る会」が補助対象からはずれ「生野黒川渓谷を守る会」なら交付対象であり、生野支所、農林振興課に要請して、種苗の交付金が継続されるよう尽力した(結果として、県、市、ともに随伴補助率１５%)。

（注２） 奈良県吉野町が津風呂湖でワカサギ釣りを始め、成功しているという情報があつた。偶然、同僚の川井議員(残念ながら昨年鬼籍に入られた、心よりご冥福をお祈りする)のご親戚が津風呂湖で軽食の喫茶店を営んでおられると言う。早速、町会議員の辻本　茂氏をご紹介いただき、議会事務局を通じ、吉野町まちづくり振興課に依頼し、Ｈ２７年２月４日に視察に出かけた。同行者は川井議員、市川生野漁協から、秋山、菊池の両氏であつた。辻本議員を中心に、津風呂湖漁業協同組合の中 義次氏、観光協会の辻本 平一氏、まちづくり振興課の桝谷 保行氏から懇切丁寧な説明を受け、孵化装置、ボート置き場、広い浮桟橋、ドーム桟橋等を視察した。釣り客の増加は町を通じた情報発信やメディアへの露出が多かったことにもよるが、根底には手軽にできる冬のレジャーとしてワカサギ釣りがブームになって来ていることにあるということであつた。

生命・愛情・発展
重視の活動

今回も観光、特に冬の観光として「銀山湖のワカサギ釣り」について、ご報告致しました。
次回は私のかかわった「生野町の整備など」についてお話したいと思っています。

市政に関するご意見、ご要望、ご相談、ご提案などお気軽にお問い合わせ下さい。